



# 白 門 板 橋

2003. 9. 18 VOL.20

編集  
発行

中央大学学員会 東京板橋区支部  
〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL03-3550-3300



■十五周年記念講演にあたり

## 支部の発展に会員増強を

支部長 小日向 孝介

本日、定時総会をかねて支部創立十五周年記念講演会を実施するにあたりまして、会員はじめ大学、学員会として地域支部から多数のご出席をいただき厚くお礼申し上げます。

ご案内のように、近時都市化が急速に進み、それに伴って環境・防災・交通等に種々の問題が発生しております。これらの対策や整備について、区は積極的に取り組んでおりますが、本日は斯界の権威者である斯波照雄教授をお招きして「まちの発展条件を歴史的に考える」をテーマにご講演をいただくことにしました。先生の専門分野からの広い視野に基づいた鋭い分析は、われわれ区民の生活を考えるうえで貴重な示唆をいただけるものと確信しております。

大学では「二十一世紀における世界で、存在感のある大学」をめざし、目下創立百一十五周年募金運動を展開中であります。これに関し支部として、総会の決議をもって参加し、また多数会員の賛同を得ているところでありますが、長引く景気低迷で目標達成に極めて厳しいものと聞いております。皆さんの更なるご支援をいただければ幸いです。

当板橋区支部は、役員はじめ会員のご協力により支部創立十五周年を迎えることができました。通年行事も年ごとに規模を拡大し、また内容を充実して安定的に推移しております。ただ高齢化の進行と財源を確保するためにも、新会員の獲得について執行部はじめ会員各位のご協力をお願いしたいと思います。

板橋区支部のますますの発展と会員各位のご健勝を祈念して、挨拶いたします。

# 支部二ニュース

## 支部創立十五周年を祝う

総会に先立ち記念講演

\*\*\*

今年、創立十五周年を迎えた板橋区支部は、去る六月二十一日（土）午後一時から、区立文化会館を会場に、定時総会に先立ち記念講演を開いた。

講師に母校・中大から斯波照雄教授を招き、「まちの発展条件を

歴史的に考える」のテーマで、九十分をわたる熱のこもった有意義な講演を、地域住民四十五名ともども聴き入った。

\*\*\*

定時総会は、定刻の午後三時から開会し、小日向議長（支部長）の手際よい議事進行で定例四議案がそれぞれ満場異議なく承認可決されました。（決議事項の詳細は5頁に掲載）

総会終結後、祝賀会にご招待した大学、学生会本部及び都区内七支部の来賓を交えた記念撮影を経て、小休止に入った。

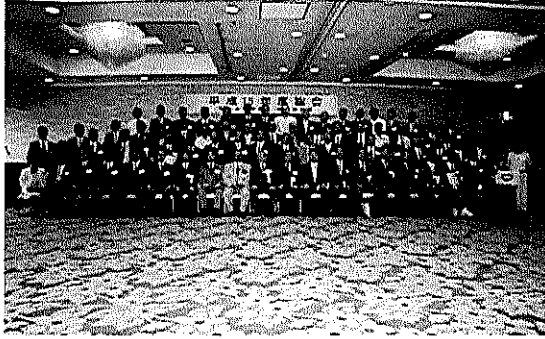
\*

午後六時、大野事務局長の司会で「支部創立十五周年祝賀&懇親の夕べ」が開宴。

大学及び多くの来賓から祝辞をいただいた後、石塚顧問（板橋区長）の発声で乾杯！

祝電披露、初参加者の自己紹介に続いて、先の選挙でめでたく勝利した区長及び三人の区議会議員に、祝福の盛大な拍手が送られた。

他支部からの来賓を交えた歓談は、いつもになく盛り上がり



## 雨に咲く桜を愛でる

\*\*\*

支部観桜会は、四月五日（土）雨と風の強い中、三十七名の会員が常盤台一・二丁目自治会事務所に集まった。小野沢・須田両世話人を始め、常盤台ブロックの方々の尽力で用意された酒と肴で乾杯。膝つき合わせての狭い会場が幸いして、日頃疎遠な面々との会話も弾み、時の経つのも忘れるほど盛り上がりがあった。



雨が小止みになった常盤台公園に移動し、雨に咲く満開の桜の下で記念撮影をして解散した。（金子記）

### ■夏の風物詩

## 世界の仕掛け花火

☆☆☆

八月三日（土）、荒川

河川敷の夜を彩った第5回「いたばし花火大会」は、五五万人の人数で賑った。それに先立つ七月八日（火）、かねて申請していた大会名物の「ナイアガラ」が、世界一の長さの仕掛け花火としてギネスブックに公認されて関係者の喜びもひとしお。区政施行七〇周年に当たる二〇〇二年のビッグイベントとして、同じ長さ三千メートルのナイアガラが実現したのは石塚区長と石原都知事との懇談の中からだったという。今年は例年どおりの五百メートルの長さに戻りはしたが、相変わらず見物客の人気を集めていた。（金子記）



# 定時総会決議事項のご報告

第十五回・支部定時総会は、去る六月二十一日(土)午後三時から区立文化会館大会議室で定刻に開会し、四議案が次のとおり賛成多数で承認可決されましたので、ご報告いたします。

\*

## 第一号議案

平成十四年度・事業報告

・四月六日(土)

支部観桜会 於区立城北公園 39名

・四月一〇日(水)

第一回ゴルフ会 寄居CC 18名

・四月二〇日(土)

囲碁同好会定例会 12名

\*以後、毎月第三土曜日開催

・四月二六日(金)

常任幹事会 25名

於区立ハイライフプラザ板橋

・五月一日(土)

幹事会 於喫茶店イヴ 8名

・五月一七日(金)

第一回カラオケ大会

スナック・ベルフラワー 33名

・五月三日(木)

幹事会 区立文化会館 39名

・六月一四日(金)

事務局会議 喫茶ルノアル 8名

・六月二二日(土)

定時総会&懇親会

於区立文化会館大会議室

来賓4名、会員66名

・七月一六日(火)

第一回・会報編集会議

於文化シャッター研修所 7名

・七月二五日(水)

常任幹事会

於レストラン・サンイチ 25名

・八月二〇日(火)

第二回・会報編集会議(校正)

於文化シャッター研修所

・九月二〇日(金)

会報及び旅行案内発送

於文化シャッター研修所

・一〇月四日(金)

第二回カラオケ大会

スナック・ベルフラワー 27名

・一〇月一七日(木)

第二回ゴルフ会

於ノーザン錦ヶ原ゴルフ場 26名

・一〇月三一日(木)

旅行委員会

於喫茶店・ルノアル 8名

・十一月一六〜一七日(日)

秋の旅行/信州・角間温泉と善光寺

・十一月二三日(金)

新宿区支部設立総会

於京王プラザホテル 2名

平成一五年

・一月一四日(金)

新春の集い

於区立文化会館大会議室 68名

・二月一八日(金)

常任幹事会 27名

於区立ハイライフプラザ板橋

・三月五日(水)

第三回・会報編集会議

於喫茶店・ルノアル 7名

・三月一〇日(金)

会報及び観桜会案内発送

於常盤台一・二丁目事務所 10名

・三月一六日(土)

囲碁同好会 定例一〇〇回記念例会を開催

以上

## 新入会員のご紹介

どうぞよろしく

お願いいたします

\*

▽雲嶋幸夫 35年文卒

板橋区高島平九丁目

一ノ五ノ二二五

・趣味/釣り、陶芸

▽保森俊秀 42年商卒

千葉市稲毛区六川

三丁目一ノ二二

・会社役員

・趣味/庭木の手入れ

▽鹿山 繁 43年商卒

板橋区坂下三丁目

二二一ノ一七

・土地家屋調査士

・趣味/ゴルフ

▽久野雄治 59年文卒

板橋区東新町一丁目

二〇二ノ八〇二

▽新木武司 59年法卒

板橋区大山町

三四ノ一七

(事務局・大野)

第一号議案

平成十四年度・収支決算報告

益田会計幹事から次表のとおり決算報告の後、栗原(泰)監事から監査報告があり、満場異議なく承認可決されました。

\*\*\*

第二号議案

平成十五年度・事業計画(案)

大野事務局長から、次のとおり説明があり、満場異議なく承認可決されました。なお、新事業に忘年会が承認されました。

\*\*\*

議なく承認可決されました。

年会が承認されました。

第2号議案(下段)4年度・収支決算報告の件

平成14年度・収支決算報告  
(自平成14年4月1日～平成15年3月31日)

目	【収入の部】		【支出の部】	
	予算額	決算額	予算額	決算額
総会費	725,000	546,000	▲ 174,000	▲ 174,000
総会費	564,000	512,000	▲ 48,000	▲ 48,000
旅行会費	840,000	874,000	▲ 34,000	▲ 34,000
懇話会費	120,000	156,000	▲ 36,000	▲ 36,000
新任会費	560,000	486,000	▲ 74,000	▲ 74,000
新任幹事会費	100,000	171,000	▲ 71,000	▲ 71,000
幹事会費	40,000	96,000	▲ 56,000	▲ 56,000
補助金	16,000	16,222	▲ 22	▲ 22
前年度繰越金	1,905,700	1,905,700	0	0
計	4,961,700	4,765,022	▲ 196,678	▲ 196,678

目	【収入の部】		【支出の部】	
	予算額	決算額	予算額	決算額
総会費	560,000	474,500	▲ 85,500	▲ 85,500
旅行会費	840,000	874,000	▲ 34,000	▲ 34,000
懇話会費	120,000	156,000	▲ 36,000	▲ 36,000
新任会費	560,000	486,000	▲ 74,000	▲ 74,000
新任幹事会費	100,000	171,000	▲ 71,000	▲ 71,000
幹事会費	40,000	96,000	▲ 56,000	▲ 56,000
補助金	16,000	16,222	▲ 22	▲ 22
前年度繰越金	1,905,700	1,905,700	0	0
計	4,961,700	4,765,022	▲ 196,678	▲ 196,678

貸借対照表		(単位:円)	
平成15年3月31日現在		前年度	
科目	金額	科目	金額
現金	48,370	現金	48,370
預金	3,543,270	預金	3,543,270
債権	870,100	債権	870,100
固定資産	379,643	固定資産	379,643
中央大学借入金	74,700	中央大学借入金	74,700
貸借対照表	800,000	貸借対照表	800,000
計	1,935,569	計	1,935,569

以上のとおり決算報告致します。

平成15年6月21日

代表 小日向 孝介  
会計 久米 英樹

以上、決議事項につき監査の結果、適正かつ適法に実行していること認めた。

平成15年5月30日

監 査 栗原 泰  
監 査 長 栗原 泰

第4号議案 平成15年度・収支予算(案)の件

平成15年度・収支予算(案)

(自平成15年4月1日～平成16年3月31日)

目	【収入の部】		【支出の部】	
	予算額	決算額	予算額	決算額
総会費	560,000	3,090,200	▲ 2,530,200	▲ 2,530,200
旅行会費	840,000	1,000,000	▲ 160,000	▲ 160,000
懇話会費	120,000	25,000	▲ 95,000	▲ 95,000
新任会費	560,000	4,000,000	▲ 3,440,000	▲ 3,440,000
新任幹事会費	100,000	8,000,000	▲ 7,900,000	▲ 7,900,000
幹事会費	40,000	7,000,000	▲ 6,960,000	▲ 6,960,000
補助金	16,000	2,000,000	▲ 1,984,000	▲ 1,984,000
前年度繰越金	1,905,700	1,905,700	0	0
計	4,064,500	4,064,500	0	0

- 一、定時総会及び懇親会並びに創立十五周年記念事業の開催
- 二、懇親会の開催
- ① 観桜会(四月五日実施済み)
- ② 旅行会(秋に予定)
- ③ 忘年会(十一月に予定)
- ④ 新年会(一月に予定)
- 三、他支部との交流
- \* 都区内支部との交流
- 四、中央大学創立百二十五周年記念事業への協力
- \* 支部及び会員で募金に協力
- 五、会員増強運動
- \* 今年も継続して会員増強に努める。
- 六、会費納入率アップの推進
- \* 会員増強と並行して、ブック別に展開する。
- 七、同好会活動の促進
- ・ 囲碁同好会(毎月第3土)
- ・ ゴルフ同好会(4・9月)
- ・ カラオケ同好会(5・10月)
- ・ パソコン同好会(随時)
- 八、広報活動
- ・ 会報「白門板橋」の発行(3・9月一回)
- ・ 『中央大学学員時報』への寄稿

第四号議案

平成十五年度・予算(案)

\*\*\*

益田会計幹事から上表のとおり説明があり、賛成多数で承認可決されました。

以上

おわび\*\*

定時総会の決議事項で上記の十四年度・収支決算及び十五年度・予算関係書類を誌面の都合で縮小したため、見にくくなりましたことおわびします。

# 支部創立十五周年事業報告

創立記念事業  
実行委員会

\*\*\*

今年六月で、支部が創立されて満十五周年を迎えました。

昔、男子の成人式を「元服」といって祝ったように、めでたいこととて節目の年にどんな事業をすべきか、二月一八日に開催された常任幹事会で協議の結果、次の三点を決議しました。

- 一、学術講演会を開催する。
- 二、都区内支部来賓を招待して祝賀会を開催する。
- 三、記念品として、支部名入れタオルをつくる。

これを受けて「創立記念事業実行委員会」が動きだし、広く地域社会への貢献を踏まえ、実行委員会の手で主催する大学と後援をお願いする板橋区教育委員会に申請手続きをし、ポスター・チラシの制作に着手。

「区報『いたばし』へのプレスリリース、ブロック長を中心に公共掲示板、縁故者へのポスター掲出

を依頼して聴衆動員へ努力した結果、地域住民約四五名の出席を得て、講演会は盛況のうちに開催することができました。

記念品の制作には、支部財政に鑑み幹事以上の役員に賛助をお願いして、有志五十四名から次のとおり賛助金をいただき、来賓及び地域住民を含めた講演会入場者等に贈呈しました。



## ■賛助金華芳名録(敬称略・順不同)

金	一〇八、〇〇〇円	須田	幸男
牧	吉雄	三田	喜一
栗原	泰房	吉野	昭一
森	英正	徳永	勝彦
小日向	孝介	岡田	利彦
巨勢	典子	中三川	孝幸
岩沢	忠弘	櫻本	都行
平山	惟美	小宮	仁
栗原	三郎	川上	久雄
川口	正	本橋	順
池田	亘利	若井	富男
菅	東一	竹田	和夫
大野	正浩	笠原	優
三宅	正代	蒲生	年公
松島	道昌	原田	幸雄
久米	英雄	佐藤	啓司
益田	永治	中山	修
関	正夫	山田	節子
関上	裕次	早坂	光平
小野	沢隆一	金子	益朗
田中	泰治	浅野	国昭
中路	義雄	豊田	哲夫
猪橋	進一	露木	久剛
佐藤	道則	近藤	正
佐藤	義	碓谷	幸照
宮村	徹	川崎	力男
大森	守	吉沢	道夫
垣内	茂		

## TOPICS ① ▲▲▲ 気力で喜之浦登頂

大学のクラスメイトと毎年「百名山」をコツコツと登り続けるI氏は、今年も七月四日から四泊五日の日程で九州・屋久島へ遠征し喜之浦岳(一九二六m)を征服した。



病気で一時中断した登山を再開して、漸く七〇山を超えるところまで辿り着いた。還暦を過ぎた年齢を考えれば、「百名山」征服は厳しいが、樹齢約七二〇年の縄文杉に無言の励ましを受け、まだまだ頑張るといふ。

(平山記)

# 伝言板

## 忘年会&新年会の 日程決まる

### 秋の旅行安房小湊に決まる

支部恒例の行事である秋の旅行が次のとおり決定し、去る八月二十二日(金)に開催された常任幹事会で承認されました。

海の幸豊かな安房へ、バスを貸し切って一泊の旅です。多数の参加を願っています。

記

▽日時 十一月二十九〜三十日  
▽旅程 東京湾アクアライン↓  
大山千枚田↓鴨川松島

↓小湊(泊)

誕生寺↓勝浦朝市↓養老溪谷↓宮崎酒造

▽宿泊 小湊・ホテル三日月  
▽会費 二九、五〇〇円

▽幹事 近藤、川崎、三宅  
▽申込み 同封の「申込み書」

で、幹事あてFAX  
1777-2222。

▽FAX 03-3579-8780  
(三宅正代)

## ホーム・カミングデー 今年は九月二十八日(日)に決定

母校・中央大学の恒例の行事となった「ホーム・カミングデー」は、今年も八王子の多摩キャンパスで開かれる。

\*

卒業して二〇年・二五年・五〇年の節目を迎える学員をメインゲストとして招待して、母校が祝ってくれるもので、非該当の学員でもまだ多摩キャンパスを知らない方は、この機会に母校を訪ねてみてはいかがでしょうか。

### ■計報■

謹んで

お悔やみ申し上げます

▼三月十九日逝去

勝沼正芳 32年商卒  
・板橋区大和町

三〇ノ一四  
・囲碁同好会員

(事務局・大野)



歳時記

●今年も冷夏だというのに、何故か若い女性に「浴衣」が流行している。

通勤の帰宅途中でよく

見かけたが、二十歳前後の女性が多かったので、夏休み中の学生か、あるいはフリーターなのだろうか？いや、そんなことはどおでもよく、上手に着こなし信玄袋を下げて

楚々と下駄で歩く姿は艶やかである。髪の色が少々気にならないが、久々に夏の風物詩を見た。

●ここで終われば綺麗な話で済むが、左前の子がいたり、スニーカーを履いてガニ股で歩いていた茶髪の娘もいて、これにはビックリ仰天した。

愛敬では済まされないお話。

(H記)

# 太田文学拾い読み



## 「緊急配備」

顔のない刑事  
隠密捜査

著者／太田 蘭三

発行所／祥伝社

\*著者プロフィール

著者・太田 蘭三は、一九二九年、三重県鈴鹿市生まれの七十四歳、中大法学部卒。同人誌を経て五六年、時代小説でデビュー。七八年、山岳推理の傑作『殺意の三面峡谷』で新境地を拓く。以後、顔のない刑事シリーズ等で読者の支持を得る。

今回は、顔のない刑事シリーズ最新作『緊急配備』で、十七作目になる作品。

\* \* \* あらすじ

暴力団がらみの極秘捜査で大阪へ向かった特捜刑事・香月功は、途中の中央高速道・諏訪湖SAで奇妙な事件に遭遇した。大型の観光バス一台が、乗客たちの休憩中に運転手もろとも姿を消した。バスジャックか？直ちに付近一



帯に緊急配備が敷かれたが、その行方はつかめない。香月は大阪西成に潜入するが、やがてバス運転手が死体で発見されるや、事件は意外な展開を見せ始める。

\* \* \* 筆致

〜中略〜

香月は、新宿駅東口を出た。駅前の新宿通りを渡り、飲食店街を通り抜けて、靖国通りを横断すると、歌舞伎町に入った。

大阪から帰庁した夜である。

十時半をまわっているのに、日本一の歓楽街といわれるだけあって、まだ通りは宵の口のような活況を呈して息吹いていた。色どりのネオンが、まぶしいほどに華やかだし、まるで湧き出るよう

に人の流れが濃かった。この街には、色気や食い気など欲望の臭いが充満している。

花道通りの方向へ、桜通りをすすむ。右頬の傷痕がネオンや看板の灯りに照らし出されると、香月の前で人の流れが左右に割れる。「ちょっと旦那……」

と、声をかけてきた客引きが、香月の顔を見るなり、表情をひるませ、お辞儀をして退がった。

右手の雑居ビルの地下の入口にスナック(タンポポ)の看板が出ていた。〜以下略〜

\* \* \* \*

追跡2の冒頭から、太田文学のほんの一部を掲載しましたが、筆致は、あくまで簡易平明で、結末を故意に伏せる技法をとらず、回りくどさがないため、推理小説に慣れない者にも柔な気分で読めます。純文学やこれに類する小説に親しんだ者には、馴染みにくいかも知れませんが、秋の夜長に虫の音を聞きながら推理小説で灯火に親しむのも一興かと思えます。

法律を学んだ作家だけに、刑事事件を捜査していく段階では、リアル感が溢れ面白い。(平山記)

大相撲七月場所 —  
中大出身力士の星取表

○●○

## 豪風と魁道が勝ち越し

魁道一場所です十両へ

○

▽出島(武蔵川)

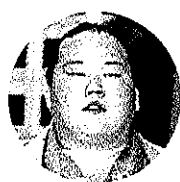
本名・出島武春 平8卒

東小結 全休

▽玉春日(片男波)

本名・松本良一 平6卒

東前頭15枚目 七勝八敗



魁道関

▽豪風(尾重)

本名・成田 旭 平14卒

東十両8枚目 九勝六敗

▽中尾(松ケ根)

本名・中尾浩規 平7卒

東十両12枚目 六勝九敗

▽魁道(友綱)

本名・田中康弘 平10卒

幕下東1枚目 五勝一敗

(池田記)



■熊野信仰のメッカ

前野町は板橋区のほぼ中央に位置している。志村台地のはずれに志村城があった。城のあった台地を城山と呼んでいる。

この台地下の前面(南側)の原野ということで、「前の原」

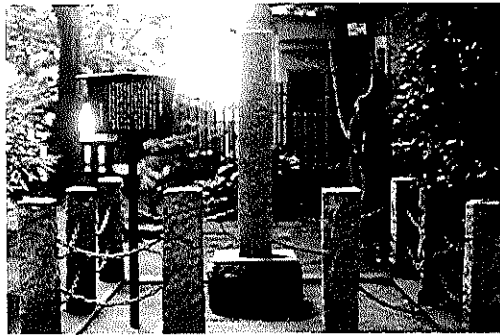
地名の由来…⑫

「前野町」の巻

と呼ばれたという。昭和七年から三十七年までは、隣の大原町と合わせて志村前野町といっていた。前野町三丁目には東熊野神社がある。熊野那智大社から勧請されたといわれる。

熊野信仰は鎌倉時代以降に日

本各地に広がったと言われ、当時この地を治めていたのは豊島氏で熊野那智大社にある「米良文書」の文安五年(一四四八)に作成された熊野領豊島年貢目録には、「前野」の地名が載っている。志村地誌「志村大観」には、「前野村の鎮守にして中前野にあり



▲写真 は 志村城跡

伊佐那岐命、伊佐那美命、事解男命の三神を祀る。鎮座の年月詳ならず。昔時は前野村の総鎮守なりと称す」とある。また前野町五丁目には西熊野神社があり、伊佐那岐命、伊佐那美命を祀す。同じく創立年代不詳であり、志村二丁目の熊野神社の分祀とも言われるが

定かでない。この西熊野神社の近くに「一夜塚」がある。なぜ「一夜塚」というのか。この頃、領主は豊島氏から千葉氏に代わっていた。現在は跡形もないが、ここから志村城は出井川を挟んで目の前である。

■弥生式土器も出土

「新編武蔵風土記」に「村ノ中程ニアリ。一間四方。往昔志村ノ城ヲ攻メントテ、寄手一夜ノ内ニ此塚ヲ築キ。遂ニ城ヲ攻落セシ故ノ名ナリ。」とある。

小田原・北条家の時に武蔵千葉氏の城を攻め、一夜のうちに炮座を築き、大発砲を放ち攻め落としただからである。江戸時代にこの東と西の熊野神社の別当寺であった常楽院は、真言宗豊山派の寺院で本尊は不動明王を安置する。幕末の頃、当時の住職が開いていた寺小屋がもとになって、明治十年に公立中仙小学校が開設された。

戦前戦後の頃の住職が、この付近から発掘された「前野町式土器」を展示保管しているの、「土器寺」とも呼ばれている。宮司さんの話では、戦前は無論、戦後の二十年代まで原っぱで、今のよう

に開けたのは地下鉄が開通してからのことだという。(中三川記)



\* 編集後記 \*

●：長い梅雨が明けたと思つたら、短い冷夏も終わりを一足飛びに残暑。五臓六腑にしみわたる暑いビールを未だに飲んでいない。コンビニのおでんが売れたというから驚きた。旧盆の夏休みには台風一〇号が襲来。一步も外出できず、太田欄二著の山岳推理小説を読み耽り、何よりの夏休み。

●：地名の由来「前野町」の冒頭に登場する「城山」の北面に隣接する「志村三丁目」に、定年まで通勤した会社が一昨年秋、池袋へ移転した。昭和四三年の秋に都営地下鉄が開通するまで、都電とバスしか交通手段がなく、週六日の通勤地獄によくぞ耐えたものだと懐かしい。(平山記)